

ヴォロジミール・ゼレンスキーとはどんな男か？

Global Research / Nauman Sadiq

February 25, 2023



Nauman Sadiq によるこの鋭い論文は、最初、2022年3月18日に書かれ、そのわずか2週間後にロシアの侵攻を受けている。それは注意深く記録されたゼレンスキー大統領の肖像と、彼のCIAへの繋がりを明らかにしている。・・・

ロシアの差し迫ったウクライナ侵攻の只中で、世界の残りの者たちがパニックに陥っているとき、鋼鉄でできた神経をもち、禁欲的に静かで、地震のさなかに瞑想する僧のように無関心な一人の男がいた。皮肉なことに、外国の投資家や観光客がこの国から逃げないように、ロシアの侵略の脅威を誇張しないように、西側の政策立案者たちに呼びかけていたこの禅僧は、あの騙されやすいウクライナの大統領にほかならなかった。

ゼレンスキー大統領は、あまりにもナイーブで差し迫った侵略の結果を理解できないか、それとも、十分に用心しているだけでなく、彼の3年の大統領任期の間に、ロシア-ウクラ

イナ戦争を統率する重要な役目を、実は持っていたかのどちらかであった。その役目とは、西側情報局の上役たちから彼に与えられた、トップシークレットを遂行することだった。

1978年1月、中央ウクライナのある町に、ユダヤ人の両親から生まれ彼は、若い時期のことについては謎に包まれている。

「彼はもともとロシア語を話す者として育ち」事実上、ウクライナ語はほとんど喋れなかった。

ヴォロジミール・ゼレンスキーは、学生時代以来、ウクライナの密かな CIA 工作者によって育てられ、その間彼は、Kryvyi Rih の国立大学で法律を学んだ。

彼は法律家にはならず、彼に影響をもつパトロンの要請で、職業として演ずることを選んだ。これは全国的に名を知られるためだったが、特にコメディの TV シリーズ「人民の公僕」を通じてそれが実現した。ここでゼレンスキーは、ウクライナ大統領の役を「予言的に演じた」。

実は、彼のプロダクション会社「Kvartal 95」という、映画、漫画、テレビショーの制作会社は、西側の治安機関の深いポケットによって、十分な資金を得ていた。ウクライナの政治家やオリガルヒ（少数有力者）の腐敗や怪しげな取引を、滑稽に暴露することによって、「人民の公僕」シリーズは 2015 から 2019 年まで放映され、ウクライナの大衆の共感を勝ち得た。

西側の治安機関は、彼の無名だったメディア組織に十分な資金を与えただけでなく、心理作戦や PR に長けた、有名なハリウッド・プロデューサーや監督の、密かな陰謀団に彼を紹介した。「人民の公僕」のメディアでの成功は、Kvartal 95 局員の努力だけでなく、グローバルな世論操作を専門とする国際的メディア組織の、技術に負うところが大きかった。

メディアの人気の波に乗ったゼレンスキーは、2019 年、地滑り的に大統領選挙に勝利した。後に、彼が偶然によって (?) 「人民の公僕」と名付けた彼の政党が、大統領就任式のすぐ後で行われた、即決の政党選挙で圧倒的な勝利を得た。

2019 年以降は、怪しげな方法によって大統領に選ばれたのち、ゼレンスキーは、薄弱な口実でロシアとの危機を創り出すための、隠れたプロジェクトを、密かに工作している。彼はロシアの提案を馬鹿にするように撥ねつけただけでなく、ウクライナの治安部隊と NATO 軍海軍の間で合同演習を計画し、これをロシアの鼻の下の黒海でやってみせた。ウ

クライナの大衆の苦しみに対する鈍感な無視と、ロシアを武力対決に引き込もうとする自殺的やり方を別にしても、彼は単に大規模な計画の中の手先にすぎない。

彼のユダヤ人という背景にもかかわらず、彼は、ウクライナの悪名高いアゾフ大隊 (Azov Battalion) と協力することに躊躇しなかった。これは公的なウクライナ国軍の一部であり、外国の白人至上主義者組織と組んで、ネオナチ義勇軍団として、広く認められたものである。

「アゾフ大隊」はもともと、2014年5月に、ウルトラ・ナショナリストのウクライナ愛国者団から、義勇軍として、またネオナチ社会国家集団 (SNA) として形成されたものである。一つの大隊として、この集団は、ウクライナ東部ドンバスの、ロシア支持分離主義者を敵として前線で戦った。

戦略的湾港都市マリウポリを、ロシアに支援された分離主義者から奪還した後、この軍団は2014年11月12日、ウクライナ国軍に正式に統合され、当時のペトロ・ポロシェンコ大統領から高い称賛を受けた。「彼らは我々の最上の戦士であり、最上の義勇軍だ」と、彼は2014年の授賞式で述べた。

・・・この軍団はアンドリウ・ビレツキーを隊長とするものだったが、2010年ビレツキーは、ウクライナの国家的目標は「世界の白人種を、ユダヤ人に導かれた劣等人種 (Untermensch) どもと戦って、最終的な聖戦へと導くものだ」と言った。ビレツキーは2014年、国会議員に選ばれ、2019年まで議員だった。

こうした軍隊は、個人的にオリガルヒによって資金を与えられたが、その最も有名なのは、イゴール・コロモイスキーというエネルギー会社の富豪で、当時のドニプロペトロフスカ地区の知事だった。・・・

Mint Press News は最近こう報告している：——

「ゼレンスキーの2019年の大統領への挑戦は、73%の支持を得たが、それは腐敗と戦い、この国に平和を創り出すために立候補したという前提があったからだ。しかし Pandora Papers というリーク文書が明かにしたように、彼は自分自身が、オフショアの銀行に資産を蓄えていた。ゼレンスキーの選挙運動はその当時、イスラエル-ウクライナの大富豪イゴール・コロモイスキーによって応援され援助されていたが、この人物は彼自身、自分の銀行から55億ドルを盗んだかどで起訴された。

・・・(数頁省略)

ロシアの電撃作戦を前にして、キエフ陥落が近づいていることは、西側の政策立案者さえ認めている既定の結論で、ウクライナの召集された軍隊と、連盟の非正規軍は、ロシアのプロとしての通常戦術の敵では全くない。

2月24日のロシアの侵攻以来の、大変動を伴った最後の3週間は、次にやってくる長い、むさ苦しい戦争物語の序章にすぎなかった。この後は、アフガニスタン、イラク、リビア、そしてシリアで起こったような、西側諸国の供給する無数の重量兵器によって起こされるだろう。

ゼレンスキーは「カリスマ的救世主」として、ウクライナにおけるロシア治安部隊に敵対する、長引く流血の反乱を導くために、いま準備されつつある。彼は、威勢のいい格好をして軍事的な疲れを演じ、感傷的な演説によって「ロシアの侵略者」に対して武器を取って戦えと同国人たちを喚び、一方、NATOのパトロンに対しては、軍事援助とクレムリンに対する最高の制裁を呼びかけているが、どのような特別の勇気を、ゼレンスキーはこれまでに見せたのだろうか？ いったい彼は、ロシア-ウクライナ戦争の、前線の火中にいたことがあるのか？

騙されやすい観衆の、もって生まれた英雄崇拜の好みを利用して、主流メディアはゼレンスキーを、聖戦を率いるメシアのように見せかけている。憎しみと激しいスピーチによって、ヨーロッパとアメリカに対して、彼をナマ放送する理由があるとすれば、それは使い捨てされる従僕を宣伝してやり、同時に地球の舞台での敵の主役を、悪党として、国際的に孤立させてやることである。

[訳者 Greatchain 注]

これはこの論文の全部でなく、ほぼ3分の2にすぎないが、およその趣旨は伝わったと思う。大体は我々の想像していた通りだが、想像をはるかに超えた露骨なドラマで、驚かれら読者が多いと思う。「墮落、腐敗」という言葉がウクライナについては、ほとんど合言葉のようになっているが、それがまたしても確認された。もう一つ顕著なのは、使う者と使われる者が当然のように存在することである。バイデンもゼレンスキーもその点では同じ立場にいるが、ゼレンスキーは自分の立場を利用して、虎の威を借りて号令している。これは滑稽でもあり哀れでもある。

なお、私がこれを翻訳する気になったのは、冒頭の写真を見たからである。これが作ったものでないとしたら、貴重な証拠写真となる。やはりゼレンスキーはナチスで、それ

を隠す気がないことがわかった。これはドイツのナチ党の「鉤十字、ハーケンクロイツ」と言われるものを、わずかに修正している。因みに卍（まんじ）は向きが逆である。